

1 2030年における地域のめざす姿

○住民も訪れる人も心地よい時を過ごす下北地域

四方を海に囲まれた下北地域では、古くからの域外との交易・交流により育まれた、優しく、おおらかな気風に包まれ、多様な地質と海洋環境、大地の上に広がる動植物の多様性、人々の暮らしにより育まれた本州最北の地に守り継がれる文化と信仰の下、住民も訪れる人も心地よい時を過ごしています。

また、古き良きモノを守りながらも、新しいモノを融合させ、地域の様々な分野の人が、連帯感をもって、ふるさとの元気をつくり続け、暮らしやすく、多くの人が訪れる魅力ある地となっています。

○地域の基盤となる経営体質の強い農林水産業と高いブランド力で地域内外から選ばれる下北の農林水産物

下北地域では、自然条件等の地域特性を生かし、「農林水産業でしっかり稼ぎ、暮らしていける下北地域」の確立に向けて、定置漁業、イカ釣り漁業やホタテ養殖などの主力漁業、稲作や畑作、酪農、肉用牛繁殖等の農畜産業、管内面積の約8割を占める森林の整備・管理を基本とした原木供給など地域の基盤となる産業において、規模拡大や低コスト生産等により経営体質が強化されています。

また、つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進による安定生産体制の確立、産直施設を核とした地域の活性化及び意欲ある若手・高齢・女性農林漁業者や新規参入者も含めた多様な担い手の確保・育成により、マグロやキアコウ、海峡サーモン、一球入魂かぼちゃ、アピオスなど下北特有の多種多様な農林水産物のブランド力が強化され、夏秋いちごの作付けが伸び、産地が拡大しています。

さらには、地域の様々な主体が連携し、付加価値を高める取組が戦略的に行われることで、下北ならではの極上品としてのブランドが確立してきており、地域の内外から選ばれるようになっています。

○観光客が繰り返し訪れる下北地域

下北ジオパーク^{*}に代表される独特の自然・歴史・文化・食などの豊富な観光資源が更に磨き上げられるとともに、個々の資源の連携が図られ、観光客の多様なニーズに応じた観光プランが提供されています。

交流を支える交通基盤の整備が進み、地域外との交流が盛んになり、外国人観光客が増えています。

地域経済をけん引する観光産業が発展し、快適に滞在できる体制が整っている上、地域住民との温かいふれあいを体験できることから、満足度の高い「何度も訪れたい地」となっています。

※ジオパーク：ジオ（大地）とパーク（公園）を組み合わせた言葉で、ジオ（大地）・エコ（自然）・ヒト（生活・文化）のつながりを学び、楽しむことができる場所のことです。

○安心して健やかに暮らせる下北地域

下北地域の住民は、きれいな水や空気に恵まれた緑豊かな森林など、生命力あふれる自然を健康づくりの場として活用しています。さらに、地元の多種多様な食材をふんだんに活用することで、健康的で自立した食生活を営み、平均寿命が延伸しています。

また、「青森県型地域共生社会」の下で、必要な時に適切な保健・医療・福祉・生活支援等のサービスを受けることができ、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが安心して暮らしています。

○手をつなぎ力を合わせる下北人

下北人は、子どもの時から、地域の歴史・自然・産業・文化・伝統・芸能を誇りに思い、地域の魅力を発信し続けています。さらに、地域内外の人と連携・交流し、国際的視野を持って地域産業をリードする人財や地域づくりに積極的に取り組む人財が活躍しています。

2 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

（1）地域の概要

○本州最北端の地域

下北地域は、青森県の最北部に位置し、四方を海に囲まれ、海に突き出た特徴的な地形から「まさかり半島」と呼ばれています。

面積は1,415平方キロメートルと県土の約15%を占め、急峻な山地が海岸まで迫り、平野部の少ない地形であり、約83%が森林です。

地域内でも場所により気候が異なっており、陸奥湾に面している西通りでは、夏は暑く、冬は雪が多い、津軽海峡に面している北通りでは、冬に海峡から吹き付ける風が強く、降雪量及び積雪量は少ない、津軽海峡と太平洋に面している東通りでは、夏は北東から吹く偏東風（ヤマセ）の影響で涼しく、山間部では降雪量及び積雪量が多いが、沿岸部では少ない、といった特徴があります。

本州最北端の地域であり、ニホンザル、ツキノワグマ、ニホンカモシカなどが生息する北限の地となっています。

○陸路と航路の交通体系

地域の交通については、「まさかり」の柄の部分を通る1本の鉄道（JR大湊線）と2本の国道（国道279号、国道338号）で上北地域と結ばれており、その2本の国道が地域を周遊する形で結ばれることで主要な道路網が形成されているほか、下北半島縦貫道路むつ南バイパスの整備が進められています。今後は、高速交通体系を含めた道路網の整備が望まれています。また、東青地域や北海道との航路も有し、生活や交流の重要な手段となっています。

○個性的な自然と交流の歴史・文化

自然豊かな下北では、恐山、薬研溪流、仏ヶ浦、本州最北端の大間崎、寒立馬が放牧されている尻屋崎などの景勝地を含む下北半島国定公園があり、また、むつ市の海底林、川内川溪谷、大間町の津鼻崎、東通村のヒバの埋没林、風間浦村の集塊岩、佐井村の願掛岩など貴重な地質資源が数多くあります。

2016（平成28）年には、下北ジオパークが日本ジオパークとして認定されました。下北を代表する景勝地を含む16のジオサイトから成り、地域一帯が学術的な観点からも高く評価され、大地、自然、生活・文化を学び、楽しむジオパークとして、下北ジオパーク推進協議会が中心となり活用・研究・保全活動を展開しています。

海を通じたの交易・文化交流に歴史を有し、江戸時代には、北前船により、北方、江戸、上方の文化がもたらされました。また、明治維新に際し、会津藩が廃藩後、1年半の間斗南藩を置いたことから、今もゆかりの史跡が残っています。

国の重要無形文化財である「下北の能舞」を始め、佐井村の福浦歌舞伎、むつ市の奥内歌舞伎、栗山大神楽など、数多くの伝統芸能が各地に伝わっています。

○多様な山海の幸や温泉を楽しむ地域

このような独特の自然・歴史・文化・伝統芸能のほか、豊富な山海の幸、温泉などの観光資源に恵まれており、他の産業とも連携した体験型の観光が数多く提供されています。

農林水産業では、良好な漁場を有することから、漁業が盛んであり、マグロ、キアッコウ、ヒラメ、サケ、タラ、コンブなど多種多様な水産物が水揚げされており、全国的な知名度を誇る大間まぐろに続き、風間浦鮫鱈、海峡サーモンなどのブランドの確立をめざしています。農業では、畜産が盛んなほか、商標登録した一球入魂かぼちゃを始め、夏秋いちご、アピオスなど特色ある産地が形成されています。

また、日本三大美林に数えられる青森ヒバの産地であることから、ヒバを活用した産品づくりも行われています。

(2) 地域の特性と課題

○構成市町村ごとの人口、世帯数

下北地域の人口は、7万4,451人で、県全体の5.7%を占めており、このうち、むつ市が79%程度を占めています。(表1)

表1 構成市町村の人口・世帯数

	むつ市	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	合計
人口(人)	58,493	5,227	6,607	1,976	2,148	74,451
世帯数	24,475	2,152	2,578	823	906	30,934

資料: 総務省「平成27年国勢調査」

○将来推計人口

下北地域の人口は、2030年の時点では6万714人と、2015(平成27)年と比べて1万3,737人、18.5%減少すると推計されています。また、2030年には生産年齢人口割合が総人口の51.6%まで減少、前期高齢者人口は14.8%まで増加し、後期高齢者人口は24.1%まで増加する見込みです。(図1、表2)

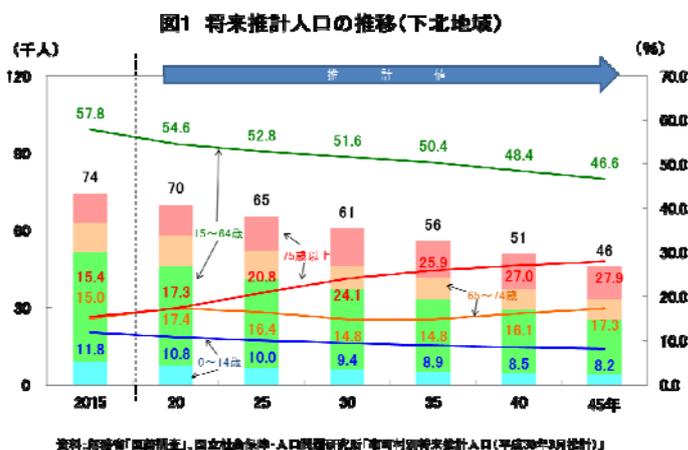


表2 構成市町村別将来推計人口

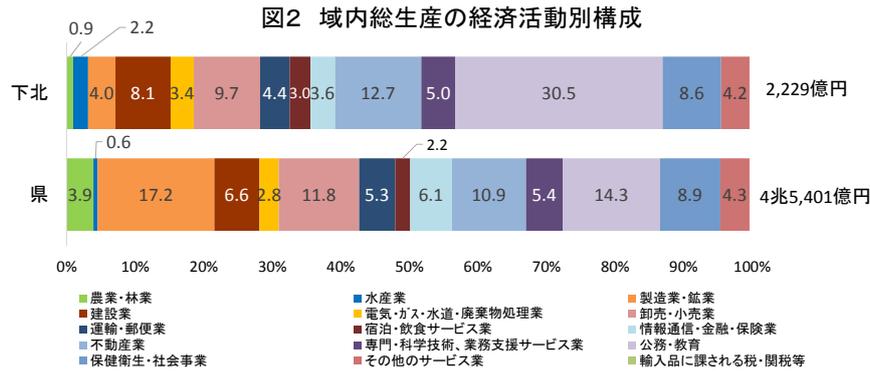
	2015年	2030年	2045年
むつ市	58,493	49,015	37,851
大間町	5,227	3,782	2,520
東通村	6,607	5,199	3,778
風間浦村	1,976	1,311	774
佐井村	2,148	1,407	843
計	74,451	60,714	45,766

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

○域内総生産の経済活動別構成

域内総生産額は2,229億円となっており、県全体の約4.9%を占めています。内訳を見ると、「公務・教育」、「不動産業」のほか、「卸売・小売業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると、「公務・教育」、「不動産業」や「水産業」の割合が高く、「製造業・鉱業」や「農業・林業」の割合が低くなっています。(図2)

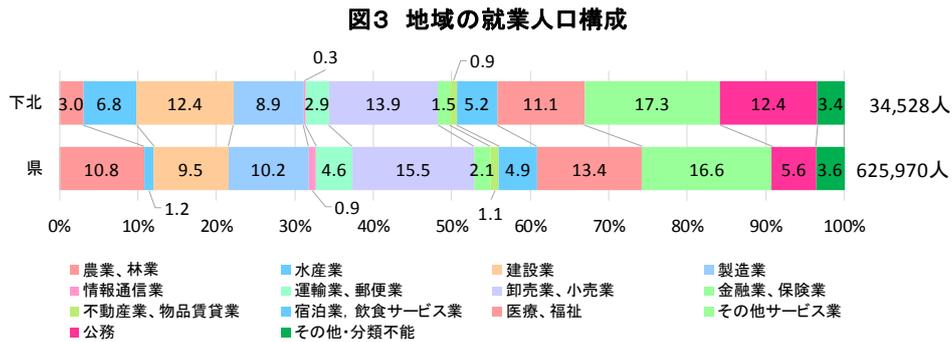


資料: 県企画政策部「平成27年度市町村民経済計算」

○就業人口構成

就業人口は3万4,528人となっており、県全体の5.5%を占めています。内訳を見ると、「その他サービス業」の割合が最も高く、次いで「卸売業、小売業」、「公務」、「建設業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると「公務」や「水産業」の割合が高く、「農業、林業」、「医療、福祉」の割合が低くなっています。(図3)

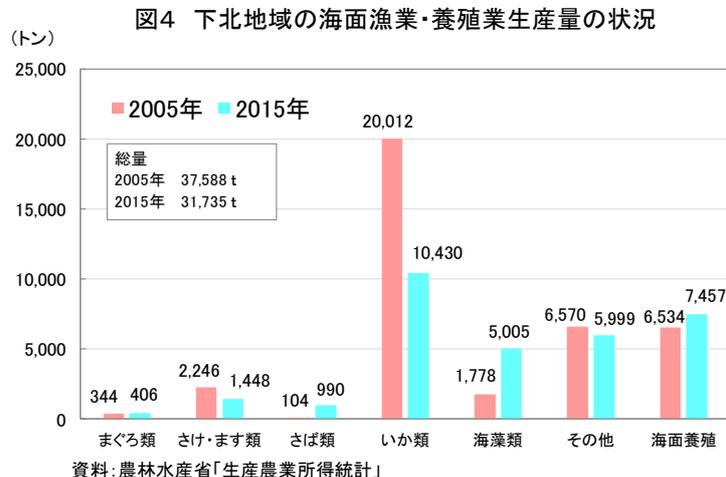


資料: 総務省「平成27年国勢調査」

○海面漁業・海面養殖業生産量

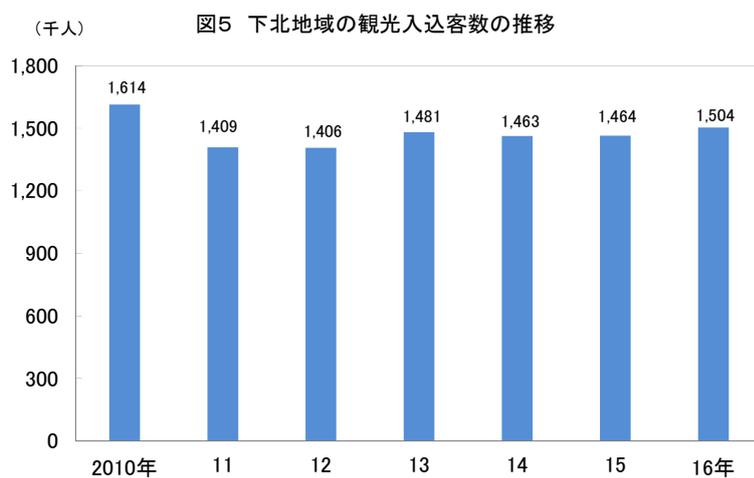
下北地域の海面漁業・海面養殖業生産量では、従来から、いか類が生産量の多くを占めていますが、2005(平成17)年と比べると半分近く減少しています。

(図4)



○観光入込客数

2016（平成28）年における下北地域の観光入込客数は150万4千人となっており、前年と比べると2.7%ほどの伸びとなっています。2011（平成23）年の東日本大震災以前の水準には戻っていませんが、緩やかな回復傾向が見られます。（図5）



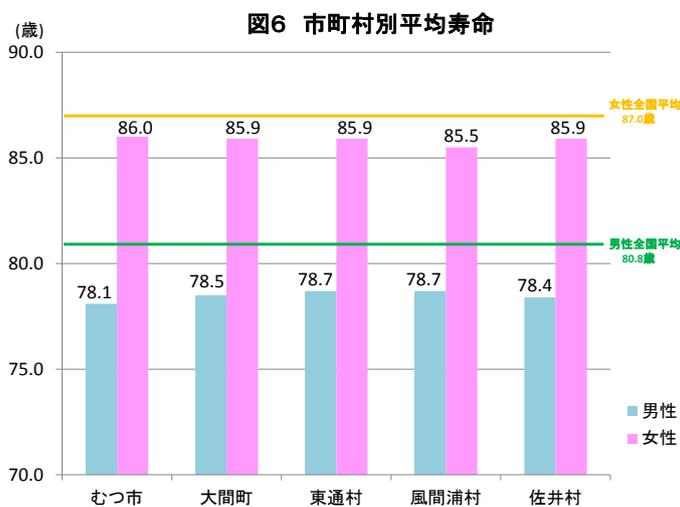
資料：県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

○健康指標

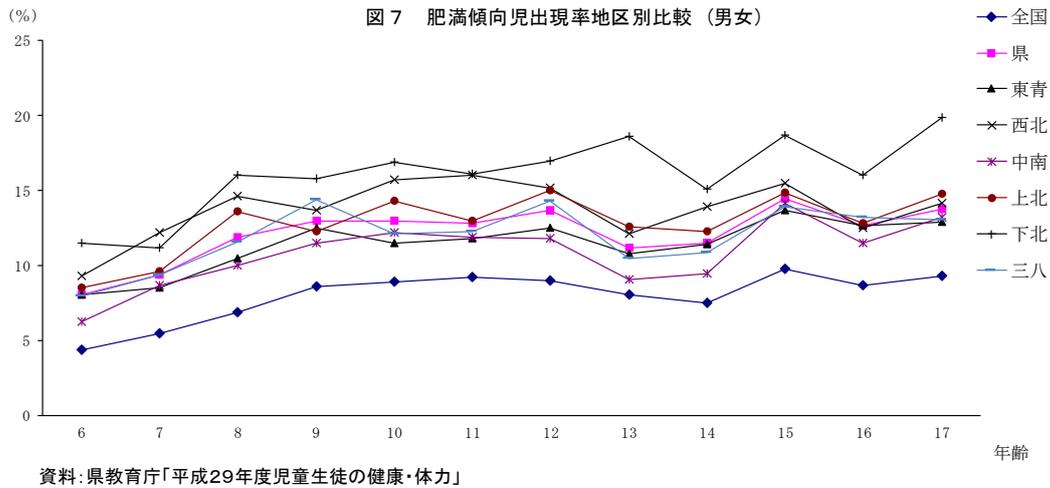
下北地域では、男性の平均寿命で全ての市町村が全国順位のワースト50位以内となっているなど、健康に関する指標が芳しくない状況にあります。

主な健康課題として、肥満者の割合や喫煙率が高いこと、がん検診の精密検査受診率が低いことなどが挙げられます。

肥満傾向児出現率は、小学校1年生から高校3年生までの全年齢層で県平均を上回るとともに、小学校2年生の年齢層を除き県内の他地区より高くなっています。（図6、図7）



資料：厚生労働省「平成27年市区町村別生命表」



3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) 地域の特長を生かした農林水産業の充実

自然条件等の地域特性を生かして、地域の基盤となる農林水産業の体質強化に取り組み、下北ならではの特色ある地域ブランドの確立をめざします。

【主な取組】

- ①地域の特性に応じた規模拡大や低コスト生産等による経営改善
- ②若手・高齢・女性農林漁業者や新規参入者等多様な担い手の確保・育成
- ③つくり育てる漁業や資源管理型漁業の推進と漁場の維持・再生
- ④地域に適した特色ある農林水産物の生産地域拡大、ブランド力の向上及びSNSの活用等による情報発信力の強化
- ⑤生産者間や食品製造業の異業種との連携促進による産地直売所の活性化と新たなビジネス展開の推進
- ⑥森林の整備、管理及び間伐材の新たな利用の促進
- ⑦広葉樹林主体の里山林整備による地域ぐるみの持続可能で安全・安心な環境づくり

(2) 満足度の高い下北観光の推進

下北ジオパークに代表される独特の自然・歴史・文化・食などを活用し、関係者が一体となって、多様な顧客ニーズに対応した観光サービスを提供する仕組みづくりと情報発信の強化に取り組みます。

また、北海道新幹線と空路、下北ならではの航路等を連携させた広域的・立体的な交流促進を図るとともに、外国人観光客の受入態勢の充実に取り組みます。

さらに、観光で「経済を回す」視点を持ち、観光客の満足度を高めることによるリピーターの確保をめざします。

【主な取組】

- ①下北ジオパークを始めとする観光資源の開発や磨き上げによる安定的な観光客受入れの推進
- ②他地域との連携による広域観光の推進
- ③外国人観光客の受入れに向けた環境整備及び人財育成
- ④地域の観光情報発信の強化
- ⑤ICTの利活用の促進
- ⑥交通基盤の整備、鉄道・空路・航路の連携

(3) 健康なまちづくりの推進

下北地域の健康課題である高い肥満傾向児出現率や高い喫煙率の改善に向け、妊産婦への保健指導の充実及び、小児期の健康的な生活習慣の定着に取り組むとともに、がん検診の精密検査受診率を向上させ、平均寿命の延伸を図ります。

また、これまで取り組んできた保健・医療・福祉包括ケアシステムを更に充実させ、「青森県型地域共生社会」の実現に向けた体制づくりを推進します。

【主な取組】

- ①小児期からの効果的な食・運動・生活習慣定着の促進
- ②飲食店等での受動喫煙のない環境の推進
- ③がん検診の精密検査受診率の向上に向けた普及啓発
- ④市町村等の支援を受けて、多様な主体が保健・医療・福祉サービスや、生活支援サービス等を提供する体制整備の推進

(4) 元気な下北をつくる人づくり

地域の歴史・自然・産業・文化・伝統・芸能といった魅力を生かした、活力ある地域づくりに向けて活動する人財の育成とネットワークづくりを推進します。

【主な取組】

- ①地域の魅力を発掘し、新たな価値を創造して、更に広める人財の育成
- ②地域の活性化やコミュニティ機能の維持に向けた、主体的な活動を実践する人財の育成
- ③交流人口・関係人口の拡大とUIJターンの推進